

つながる

問い合わせ
社会教育課教務係（☎内線467）

人生の進路を決めた

バスケットボール

教育委員会 委員

野中 秀典



「ピ」と審判の笛が鳴る。私のシュートに対するディフェンスの反則で、2本のフリースローが与えられた。館内の全員が注目する緊張の時間である。1969年、全日本学生バスケットボール選手権大会の一場面。勝敗の行方はすでに決まった終了間際、監督の温情で出場機会を得た私にとって忘れることのないワンシーンである。

ここから遡ること8年前、中学2年生から何となく始めたバスケットボール。小柄で運動能力もない私にとって、このスポーツが将来を左右することになるとは思ってもいなかった。

高校までの5年間は、ゴムボールを土のコートで弾ませ走り回った。その中で一番の喜びは、革のボールを使い、体育館でプレーができる公式戦の試合だった。結果はどつてもよかった。シューズが床に強く触れる時の「キュ」という音に憧れるのである。思い当たる方もおられるのでは…。

このような経験からバスケットボールを中心とした運動・スポーツをより専門的に学ぶための大学を決めた。運よく入った大学で待っていたのは、鬼のコーチと怖い先輩、そして地獄の猛練習だった。その鬼コーチが私の人生の恩師でもある。その先生の厳しい指導と先輩のしごきに耐え、迎えたのが冒頭のシーンに繋がるのである。大学4年間を通して常に11番目以下の選手だった私だが、この4年間でかけがえのない経験と友人を得たのである。「好きこそもの上手なれ」と言うとおり、打ち込むほどに技術も体力もそれなりについてくるものがある。と同時に、何事にも自信が持てるようになり、将来への展望も自ずと開け、結果、中学校の保健体育の教師としての道を進むことになった。以来20年間、バスケットボールをきっかけに多くの人と出会い、そのスポーツの魅力を伝えてきた。

だれにも振り返れば人生のターニングポイントに思い当たる出来事があったのではないだろうか。今、太宰府市内の多くの子どもたちが、社会体育や学校の部活動などで多種目にわたるスポーツを楽しんでいます。一般的に、いろいろなことに興味や好奇心を持つ時期は10代前後と言われています。それまでに、スポーツに限らずあらゆるものの実体験を通して、好奇心は広がります。さらに意欲がわいてくると思います。子どもたちは、この貴重な経験を通して、たくさんのお話を学んでいくことでしょうか。そして、その先には、きっと豊かで希望の持てる世界が待っていると信じます。

《リレー随筆》次回は樋田委員長です。

友好都市 10 周年記念 子ども親善使節団交流会



友好都市締結 10 周年記念事業として、太宰府子ども親善使節団の子どもたちが、宮城県多賀城市を訪問し、交流を行ってきました。以下子どもたちの感想です。

- ・また機会があれば交流したい
- ・今回学んだことを次世代に伝えていくべきと感じた
- ・太宰府市と多賀城市が友好都市でよかった
- ・宮城県の名産品が全部おいしかった
- ・震災の義援金が使われて復興しているのを見ることができとても嬉しかった
- ・これからも遠くても仲良しでいたい